

# 昭和 13 年の第 3 機関銃中隊 (3)

～部隊陣中日誌から



期間：2021年10月30日～2022年2月24日

## 解説

第55・56回から見てきた「昭和13年の第3機関銃中隊 ～部隊陣中日誌から」は、本回が最終回となります。

第56回では、歩兵第38連隊第3大隊第3機関銃中隊の昭和13(1938)年9月の行動を見てきました。部隊は、武漢(漢口)作戦の一環として、中国国民党系の守備部隊が立てこもっていた武漢北方の山岳地帯を攻略する作戦に従事しており、月末には激戦になります。中隊の百人強の構成員のうちから、1日で20人もの戦傷者を出す日もあるほどでした。

歩兵第38連隊の「戦闘詳報」が防衛省防衛研究所に残されており、これはアジア歴史資料センターのウェブサイトから全文が閲覧可能なことは、第56回で見ましたが(同センターref:C11111201700)、加えて10月には、第3大隊の「戦闘詳報」も、同様な方法で見ることが出来ます。件名「水谷山附近の戦闘詳報 第38号」「大円山附近の戦闘詳報 第39号」(同センターref:C11111795000, 11111795100)がこれにあたります。

さて、日誌は10月に入り、当初は落ち着いた日々が記されていますが、2日には大隊長が前線を視察し、3日には、より上位の連隊長、師団長が偵察に訪れるなど、次の攻撃の準備が進められていることがわかります。前述の大隊戦闘詳報によれば、4日22時には、6日6時に総攻撃に入る旨の連隊長命令が出され、日誌にも「明後六日ノ払暁攻撃力待タル」と見えます。

機関銃中隊は、命令では「現在地ニ在リテ射撃」つまり後方からの支援だったものの、6日の日誌によれば霧でそれが不可能になったために、前線に出て大隊主力に合流して戦闘に参加、3名の戦傷者を出しています。なおこの判断は「独断」によるものであったと、大隊戦闘詳報は記しています。

表紙の図にもあるように、7日にかけて大隊は、松山一帯の高地の占領に成功しました。日誌にも、山上からなお敵の依る南方の白雪山や、今後進攻していくべき漢口平野を見渡して感慨にふける叙述が見られます。

9・10日には、中隊長交代の記載がありますが、10月の日誌は、1日のものから新中隊長となった太田善壽中尉の検印があります。これは、中隊長の日誌記載チェックが毎日行われていたわけではなく、月末等にまとめて行われていたためと思われる。

ついで大隊はいったん下山、中隊も9月末よりの戦闘で消耗した兵員の補充を受けるなど態勢を整えた後、占領した高地の西端トガリ山からその東方の大円山への攻撃に移ります。

この大円山攻撃においては、6日のように機関銃中隊が最前線に立つような場面は見られませんでした。今回、紹介できなかったものを含めて、大隊命令には、戦況の進展に伴う陣地の転換が頻繁に記され、「攻撃スベシ」「前進スベシ」といった語にあふれています。その主体は大隊傘下の歩兵中隊、すなわち歩兵第8～第12中隊です。4頁下に掲載した15日の戦闘要図のように、青アラビア数字のみで記される歩兵中隊が敵陣に肉薄し、機関

銃中隊は後方からこれを支援する形でした。そのため、戦闘中にもかかわらず、日誌の記載は淡々としたものが続いています。

とはいえ、この間中隊員が最前線の戦闘から無縁だったわけではありません。従来から見られるように、機関銃中隊の中から小隊や分隊が抽出され、一時的に歩兵中隊と行動を共にするといった運用はしばしば行われており、今回の日誌にも、小隊や分隊が「配属ス」「復帰ス」といった記載がしばしばみられます。こうした小隊や分隊に配属された機関銃中隊兵士にとっては、歩兵中隊と同様、最前線での激しい戦闘を余儀なくされています。が、配属先での戦闘は、機関銃中隊本部の陣中日誌には、反映されていません。

日誌は、15日に「戦局ハ有利ニ進展シ十九時遂ニ大円山々頂ヲ占領」と記すのみですが、大隊戦闘詳報は「午後五時三十分突撃喇叭ト共ニ各中隊「ル」「リ」陣地ニ突入格闘数分ニシテ遂ニ日章旗翻翻トシテ翻ル」といった具合に、微に入り細にわたった詳細な記載があり、連隊のものも同様です。機関銃中隊員の中にもこうした戦闘に参加したものもいたはずですが。

23日には、白雲山も陥落し、中隊も追撃に移ります。24日の日誌には、「約1ヶ月ノ山嶽暮シ」が終了し、道路上の行軍に移った際の解放感を「気持皆発刺」と記しています。

その後、湖北省の小都市黄安(現紅安)で、4日間を過ごし、31日に移動したところで日誌は終わっています。その後も中隊の陣中日誌は作成され続けたはずですが、当館が所蔵しているのは、今までに紹介した昭和13年の3・9・10月にとどまっています。

最後に、その後の機関銃中隊を含む歩兵第38連隊の足跡について簡単に触れておきます。連隊はその後昭和14年7月までの約1年弱、中支各地の作戦に従事して帰国します。昭和16年4月からは対ソ戦に備えて関東軍に編入され、結果として19年2月までは、満洲で比較的平和な日々を送ります。しかし、太平洋方面の戦局の悪化に伴い、直接グアム島に派遣され、同年7月には、上陸した米軍と交戦、玉砕すなわち全滅の憂き目を見えます(『奈良聯隊写真帖』)。こうした経過もあって、本日誌のような日中戦争期のものやそれ以前の時期のものとは異なり、満洲派遣後の連隊の史料は非常に乏しいのが現状です。

凡 例

- ・日誌部分は全文を、命令写は主要なもののみを選択して、斜字で示したが、採録しなかった命令も【】内に命令番号のみは記した。採録した場合、午前の命令は日誌部分の前に、午後の場合は後に掲載した
- ・基本的に新字に改め、最小限の句読点を補った
- ・表紙と同様、日誌の日付の後には、中隊長の確認を示す「太田」の印があるが省略した

(表紙)

「 <印「太田」>

自昭和十三年十月一日

至昭和十三年十月三十一日

秘 第拾四号

陣中日誌

第三機関銃中隊

」

十月一日 雨 於東楼南方高地

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ70号】
- 一、心待ちニシテイタ糧秣五日分受領ス
- 一、山ハ依然霧深ク通視全クキカズ
- 一、池崎庄次郎、吉村少尉看護付添ヨリ帰隊ス
- 一、本日テ約一週間ノ対陣生活ナリ
- 一、二十四時ヲ期シ大隊全部一斉射撃ヲナス
- 一、本日ノ現在員 中隊長以下一〇五名

歩三八 III 作命六ノ70号 十月一日十七時〇分

於東楼高地中央

第三大隊命令

- 一、先遣隊当面ノ敵ハ未タ大ナル変化ヲ認メサルモ三十八連隊主力正面ノ敵ハ目下退却中ニシテ其ノ兵力約一連隊ナリ
- 三浦部隊ハ東楼高地西北無名川ニ近ク進出シアリ
- 二、大隊ハ現在地ヲ確保シ主トシテ西方ノ敵ニ対シ晴間ヲ利用シ重火器ノ射撃ヲ以テ三浦大隊ノ攻撃ニ協力スル共ニ南西面ノ敵ニ対シテハ其動静ヲ明カナラ

シメントス

三、第十中隊 機関銃中隊、砲兵砲小隊、第九中隊、第十一ノ一ノ小隊(第一線タル)ハ二十四時ヲ期シ岩山、松山、鉢巻山ノ線ノ予想スル敵陣地ニ対シ威嚇射撃ヲ実施スヘシ

小銃ハ二三発ノ一斉射撃ヲ以テ足レリトス其他之ニ準ス

四、余ハ東楼高地中央ニ在リ

大隊長 児玉少佐

十月二日 曇後晴 於東楼南方高地

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【該当なし】
- 一、前面ノ敵ニ関シテハ別ニ変化ナシ、相変ラス濃霧テ何所モ見エス今日モ又日尚暗キ塹壕生活
- 一、十二時頃ヨリ霧晴約一週間振りニ太陽ヲ見ル、一望ニ見得ル下界ハ何ト気分ノ壮快サヨ、通視キクヤ敵迫撃砲弾我カ陣地前後ニ猛烈ニ落下ス
- 一、十九時二十分大隊長前面ノ敵ヲ偵察ニ来ラル
- 一、冬襦袢受領ス
- 一、本日ノ現在員前日ニ同シ

十月三日 晴 於東楼南方高地

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ71号】
- 一、午前八時夏襦袢返納ス
- 一、山頂ヨリ山麓ヲ見レハ濃霧ノ為大海ノ如ク高キ山ハ島ノ如シ、午前七時十分頃近頃ニナイ日ノ出ヲ拝シ意気益々揚ル
- 一、連隊長、旅団長閣下大隊全面ノ敵情ヲ偵察ニ来ラル、師団ノ主力ハ我第三大隊正面ニ指向サレルト聞ク
- 一、十九時三十分第二大隊長及第二大隊ノ幹部中隊ノ位置ニ来ラレ敵状ヲ偵察ニ来ル
- 一、岡本少尉、吉村少尉中尉ニ進級ス(九月三十日付)
- 一、本日ノ現在員前日ニ同シ

十月四日 晴 於東楼南方高地

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【該当なし】
- 一、前面ノ敵ニ関シテハ依然変化ナシ、中隊ハ現在地

確保、時々迫撃砲陣地直前ニ落下スルノミ我カ山砲ノ射撃ニテ沈黙ス

- 一、午前十一時糧秣受領
- 一、十六時三十分中隊長大隊本部ニ集合
- 一、中村軍曹、任陸軍歩兵曹長（十月二日付）
- 一、各火砲我カ正面ノ敵陣地攻撃ノ為続々山麓陣地占領、実ニ心強ク明後六日ノ払暁攻撃カ待タル
- 一、二十三時一斉委射撃ヲナス
- 一、本日ノ現在員前日ニ同シ

十月五日 晴 於東樓南方高地

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 72 号】
- 一、吉川准尉病氣ノ為下山ス
- 一、二十一時一斉射撃ヲナス
- 一、夜ニ入ルヤ明日ノ総攻撃ニ有効ナル協力センカタメ陣地構築ヲナス
- 一、本日ノ現在員 中隊長以下一〇五名

歩三八 III 作命六ノ 72 号

第三大隊目命令 十月五日十二時五五分

於東樓高地中央

- 一、敵情及友軍ノ状況別紙一六師作命五七五号要旨ノ如ク其他歩三八作命第六ノ 94 号ノ如シ
- 二、大隊ハ聯隊ノ中第一線トナリ第二大隊ニ連繫シ一文字山松山鉢巻山ノ敵陣地ニ対シ明六日三時行動ヲ開始シ右ノ松山山麓ニ前進シ六時迄ニ攻撃ヲ準備セントス、攻撃前進ノ時機ハ別命ス、第二大隊ト戰闘地境ハ現左機関銃中隊ノ占領セル陣地ノ右端、岩山高地ノ左端ヲ連スル線（線上ハ第二大隊ニ属ス）トス
- 三、右ヨリ第十、九、十一中隊第一線、第十二中隊第二線第一線ニ予メ指示セル進路ヲ概ネ三時ヨリ前進ヲ起シ右ノ松山山麓ニ死角ヲ利用シテ五時三十分迄ニ隊伍ヲ整頓スヘシ、第九中隊ヲ基準トス 機関銃中隊ノ一小隊ト一分隊及第二線中隊ハ大隊本部ノ後方ヨリ其順序ニ第十中隊ノ進路ヲ前進スルモノトス
- 四、機関銃中隊（一小隊ト一分隊欠）及歩兵砲ハ現在地ニ在リテ射撃ヲ準備シ六日天明ト共ニ射撃ヲ開始シ、

主トシテ右ノ松山及左ノ松山陣地ノ野山砲ノ火力ヲ充分ナラサル要点ニ対シ適時制圧シ第一線中隊ノ攻撃ヲ援助スヘシ、第一線中隊右ノ松山攻略奪取後戦果ヲ左ニ拡張スルニ当リ東方ニ敗走スル敵ニ対シテハ機ヲ逸セス之ヲ撃滅スヘシ、大隊主力鉢巻山ニ到ル間ヲ完全ニ占領後ハ適宜ノ進路ヲ選ヒ之ニ追及スヘシ

五、小行李ハ松山ヨリ鉢巻山一体ノ高地ヲ占領後可成速ニ二十五日ノ隊縋帯ノ附近ニ前進シ弾薬ノ補給ニ任セシムヘシ

六、余ハ六日三時現在地ヲ出發大隊本部ト共ニ前進ス

大隊長児玉少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

歩三八 III 作命六ノ 73 号

第三大隊目命令 十月六日六時〇分

於右松山山麓

- 一、大隊ハ砲兵迫撃砲ノ射撃効果ヲ利用シ右松山陣地ヲ奪取シ、其山頂ヨリ続イテ左松山及鉢巻山陣地ヲ占領セントス
- 二、第十中隊（MG一分隊附）右第十一中隊（MG1/4 属）左第一線トス、第十中隊基準山麓ニ於テ展開シ攻撃ヲ準備スヘシ、攻撃前進ノ時機ハ別命ス
- 三、右ヨリ第十二、九中隊ハ予備隊トス、第十二中隊基準第一線攻撃前進ノ時機ヲ示ス
- 四、第一線各中隊ハ右松山及一文字高地占領後、第十一中隊ヲ軸トシ左ニ旋回シ東方ニ対シ戦果ヲ拡張スヘシ

大隊長児玉少佐

下達法 各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

十月六日 晴 於東樓南方高地

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 73,74 号】
- 一、七時二十分頃ヨリ砲撃ヲナス
- 一、第一（岡本）小隊第十一中隊ニ、中島分隊第十中隊ニ配属ノ為大隊本部ノ位置ニ到ル
- 一、主力機関銃ハ以前現位置ニ於テ協カス、攻撃開始

スルヤ霧又來リ目標見エス砲兵ノ協力出来ス残念ナリ、中隊モ現在地ニ於テ充分ナル協力出来ス午前十一時現陣地ヲ撤シ大隊主力ニ追及ス、十二時大隊主力ニ合流ス、中腹ニ於テ大隊ノ攻撃ニ協力第十一中隊山腹ヲ占領スルヤ中隊主力ハ山頂ニ急迫同地確保夜ニ入ル

- 一、十五時岡晴男負傷ス
- 一、十五時三十分大森栄一負傷ス
- 一、十六時五十分岡田実負傷ス
- 一、本戦闘ニ於テ機関銃ハ敵弾ニ依リ破損ス
- 一、前田義一、田中伊作、下田明治各々平病ニテ入院ス
- 一、本日ノ現在員中隊長以下九十九名

十月七日 晴 於松山高地

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 75-77 号】
- 一、午前六時炊爨ノ為下山中隊ハ依然現地ニ在リテ確保ニ任ス
- 一、午前十一時第十一中隊ノ陣地ヲ撤シ第十二中隊正面ニ陣地返還、大隊一文字山攻撃ニ協力スル為陣地ヲ占領ス
- 一、十六時馬場春重、山中音松入院ノ所退院帰隊
- 一、霧ノ晴間ヲ利用シ敵ハ迫撃砲ヲ盛ニ射出ス陣地前後ニ落下裂烈ス  
攻撃ハ霧ノタメ一時中止サル
- 一、中隊ハ明日ノ攻撃ノ準備スルト共ニ現地確保ノ儘夜ヲ徹ス
- 一、吉川准尉平病ノタメ入院
- 一、本日ノ現在員中隊長以下一〇〇名

十月八日 晴 於鉢巻山高地

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 78 号】
- 一、雨ダト気付カハレシ昨夜モ明クレハ一点ノ雲モナク晴レ渡レリ、而レ共下界ハ矢張り密雲ニ杜絶サレ大海ノ如シ
- 一、八時四十分鉢巻山ニ陣地移動ス、鉢巻山ヨリ見レハ南方ニ聳エル白雲山此ノ堅陣ヲ突破シ漢口平野ニ進出スルモ近日ダ今暫クノ奮闘ナリ
- 一、午前八時新宗一郎負傷入院ス

- 一、十五時中村曹長補充要員受領ノ為下山シ二十五名ノ補充員受領ノ後一時中隊ノ位置ニ到着ス
- 一、乾伍長、山本武雄入院ノ所隊員帰隊ス
- 一、本日ノ現在員中隊以下一二六名

歩三八 III 作命六ノ 78 号

第三大隊命令 十月八日十三時〇分

於トガリ山頂上西北方

- 一、第十師団方面ハ戦況有利ニシテ其ノ一部ハ信陽南方十八軒ノ地点ニ於テ京漢線ヲ遮断セリ、当師団及第十三師団ノ戦況モ有利ナリ、連隊ハ第一大隊及第二大隊ノ一部ヲ以テ岩山（旧称奥ノ岩山）及一文字山ヲ攻撃シ第三大隊ヲ以テ大円山ニ対スル攻撃ヲ準備ス
- 二、大隊ハ左ノ松山ヨリトリデ山ニ亘リ展開シ大円山ニ対スル攻撃ヲ準備シ且重火器ヲ以テ第一大隊ノ攻撃ニ協力セントス
- 三、右ヨリ第十二中隊、第十一中隊、第一線第十二中隊ハ左ノ松山、第十一中隊ハトガリ山ヨリトリデ山ニ亘ル間ヲ歩兵第三十三連隊三浦大隊ト連繫シ展開シ、大円山ニ対シ主トシテ目視ヲ以テ偵察ヲ実施スヘシ
- 四、機関銃中隊（第九、第十二中隊配属機関銃復期セシム）ハ主力ヲ以テ現在陣地附近ニ於テ、大隊砲小隊ハ現在陣地ニ於テ第一大隊ノ攻撃ヲ背後ヨリ協力スル如ク射撃ヲ実施スヘシ、其ノ射撃開始ハ後命ス
- 五、第九中隊、第十中隊ハ予備隊トス、第九中隊ハ第十二中隊ノ後方、第十中隊ハ大隊本部ノ後方ニ部隊ヲ分散位置スヘシ
- 六、隊繙帶所ハ二十五日ノ位置附近ニ異動スヘシ
- 七、余ハトガリ山頂上ヨリ西北方約二百米ノ地点ニ在リ

大隊長児玉少佐

下達法 1 1MG、B i A 中隊長ニ要旨ヲ口達後命令受領者ヲ集メ口達筆記



歩三八 III 作命六ノ 79 号

第三大隊命令 十月九日七時三十分 於トガリ山

- 一、水谷山ヨリ岩山ニ対スル昨日ノ攻撃ハ成功スルニ至ラス、連隊ハ主カヲ以テ今朝該攻撃ヲ再攻セントス
- 二、大隊ハトガリ山以東ヲ三浦大隊ニ譲リ一部ヲ以テ右ノ松山左ノ松山間ヲ守備セシメ、主カヲ以テ水谷山方向ニ異動ヲ準備セントス
- 三、第十中隊(1/4MG属ス)ハ三浦大隊ト連繫シ右松山左ノ松山間ヲ守備スヘシ
- 四、第九中隊ハ第十中隊ト守備ヲ交代シタル後昨日昼間ノ位置ニ集結スヘシ
- 五、第十一中隊ハ三浦大隊ノ一部ニ現位置ヲ引継キタル後予備隊ノ後方ニ集結スヘシ
- 六、第十二中隊ハ其ノ守備ヲ第十中隊ニ申継ギタル後其ノ陣地ノ後方ニ集結スヘシ
- 七、機関銃中隊、大隊砲小隊ハ現陣地ニ在リテ所要ニ応ジ第一大隊ノ岩山一文字山攻撃ヲ援助シ得ル体勢ニ在リテ異動ヲ準備シアルヘシ
- 八、余ハトガリ山頂上ヨリ西北方二百米ノ地点ニ在リ

大隊長児玉少佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記

十月九日 曇 於松山高地

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 79-81 号】
- 一、九時補充要員ヲ加ヘ一部ノ編成替ヲ実施ス
- 一、十三時大隊集結ノ為下山ス
- 一、十六時我等カ中隊長第三十旅団副官ニ榮転サルハニ付別離ノ挨拶アリ
- 一、第一大隊ノ水各山攻撃ニ協カスル為右松山高地ニ到ル、頂上ニ達セン時第一大隊攻撃開始中隊ノ全火力ヲ以テ側方ヨリ猛射ヲ加ヘ有効ナル協力ヲナス
- 一、日没ト共ニ大ニ夜間射撃準備ヲナシ同陣地確保ノ俟夜ヲ徹ス
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

歩三八 III 作命六ノ 80 号

第三大隊命令 十月九日十三時〇分 於トガリ山

- 一、大隊ハ第十中隊及機関銃一小隊ヲ現在地ニ残置シ主カヲ以テ連隊本部西南側ニ異動セントス
  - 二、各中隊大隊砲小隊ハ成ル可ク速ニ去ル六日隊繙帯所ノ位置附近ニ異動集結スヘシ
  - 三、隊繙帯所ハ閉鎖シ大隊本部ニ続行スヘシ
  - 四、余ハ十三時十分現在地出發同所ニ前進ス
- 大隊長児玉少佐
- 下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記

十月十日 雨 於松山高地

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 82 号】
- 一、中隊ハ第一大隊ノ攻撃ニ協カスルタメ依然現陣地ニ在リテ天候ノ快復ヲ待ツ
- 一、十一時太田中尉交代ノタメ中隊ノ位置ニ来リ前中隊長ト申送りヲナス
- 一、十二時三十分前中隊長福山大尉殿旅団司令部へ附任サレル為伝令上田弘ト共ニ下山サル、新中隊長太田中尉挨拶ス
- 一、本夜モ現在地ニ於テ夜ヲ徹ス
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

歩三八 III 作命六ノ 82 号 十月十日二十時三十分

於水谷山

第三大隊命令

- 一、当面ノ敵情ハ今朝来概ネ平穩ニシテ積極的模様ナシ、第一大隊ハ十七時三十分岩山一帯及一文字山ヲ占領セリ、歩兵隊ハ主カヲ以テ明十一日払曉ヨリ大円山及大別富士附近ノ敵陣地攻撃ヲ準備ス、右側支隊ハ師団ノ主カノ右側背ヲ擁護スルト共ニ、其ノ第三大隊ヲ以テ水谷山西側高地附近ヲ占領シ歩兵隊ノ岩山確保ニ協カス、宇廻隊(11/9 i 主力、BA一分隊)ハ明払曉迄ニ揚家砦東南側高地ニ進出、爾後軍牛望月高地方向ニ進出シ敵ノ側背ヲ攻撃ス、連隊(配属部隊モトノ如シ)ハ歩兵隊ノ右第一線トナリ、一部ヲ以テ岩山附近ヲ堅固ニ占領シ右翼隊ノ拠点タラシメ、主カヲ以テ払曉迄ニ大円山ノ攻撃ヲ企図ス
- 砲兵隊ハ主カヲ以テ大円山攻撃ニ協カスル筈、三浦部隊ハ明払曉迄ニ大円山ノ敵陣地ニ対シ至近ノ距

離攻撃ヲ準備ス、野砲兵第一大隊ハ直接協カスル筈、  
第一大隊(第十二中隊属)ハ概ネ現態勢ヲ以テ岩山、  
一文字山附近ヲ堅固ニ占領シ、右翼ノ拠点トナリ、  
ナシ得レバ一文字山附近ヨリ大円山ノ背後ニ対シ大  
円山攻撃ニ協カシ得ル如ク準備ス

第二大隊(-6)ハ概ネ現在地附近ニ於テ右側方ヲ  
警戒セシメ主力ハ待機ス、各火砲部隊ハ概ネ現在ノ  
配置ニ於テ三浦部隊ノ攻撃ニ協カスルノ準備ヲナス  
二、大隊(第十二中隊欠)ハ明払曉迄ニ第十中隊、機関  
銃主力及び大隊砲小隊ヲ左松山、トガリ山附近ニ配  
置シ三浦部隊ノ攻撃ニ火カヲ以テ協カセシメ、主力  
ヲ以テトガリ山北麓附近ニ待機シ戦禍ノ拡張ニ応ス  
ルノ準備ヲナサントス

三、第十中隊ハ七時迄ニトガリ山、トリデ山間ニ異動  
シ主トシテ火カヲ以テ三浦大隊ノ攻撃ヲ援助スヘシ、  
其ノ攻撃前進ノ時機ハ後命ス、機関銃小隊ノ配属ヲ  
解ク

四、機関銃中隊(一小隊一分隊欠)ハ七時迄ニ右松山及  
トガリ山附近ニ陣地ヲ占領シ、三浦大隊ノ大円山攻  
撃ヲ援助スヘシ、第十中隊ニ配属セシム小隊ヲ復期  
セシム又機関銃中隊長ハ七時三十分迄ニ其一小隊ト  
一分隊ヲトリデ山ニ差出シ待機セシムヘシ

五、大隊砲小隊ハ左松山トガリ山間ニ陣地ヲ占領シ三  
浦大隊ノ大円山攻撃ヲ援助スヘシ

六、爾余ノ諸隊ハ七時現在地出發 I I I 本部、第十一、  
第九中隊ノ順序ヲ以テトガリ山北側凹地ニ向ヒ前進  
スヘシ

七、余ハ七時〇分出發 I I I 本部ト共ニ集合地ヘ至ル  
大隊長児玉少佐

下達法 要旨ヲ口達筆記セシメタル後命令受領者  
ヲ集メ口達筆記

十月十一日 曇 於トガリ山

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 83,84 号】
- 一、六時現松山高地ヲ徹シ三浦大隊大円山攻撃ニ協カ  
スル為トガリ山ニ前進ス、岡本少隊及松村分隊ハト  
リデ山ニ於テ待機セシム
- 一、本日モ霧ノ為攻撃出来得ス現位置ノ態勢ヲ以テ夜

ヲ徹ス

- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

十月十二日 晴 於トガリ山

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 85 号】
- 一、八時大円山占領ト聞クモ霧晴テ見レハ今ダニ占領  
シアラス敵尚頑強ニ抵抗シツ、アリ
- 一、十三時五十分吉川准尉、森川岸雄、植田定雄、米田  
正一退院帰隊ス
- 一、本日モ霧ノ為攻撃進捗セズ
- 一、夜ニ入ルト同時ニ霧益々深く時々雨トナリ風寒シ  
一夜ナリ
- 一、本日ノ現在員一三〇名

十月十三日 雨 於トガリ山

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 86 号】
- 一、五時松村分隊中隊ニ復期ス 岡本小隊第十一中隊  
ニ配属シ三浦大隊ノ位置ニ到リ攻撃交代ス
- 一、十四時十五分辰巳伍長戦死ス
- 一、十六時三十分稲田岩男戦死ス
- 一、被服受領ス、中隊ハ依然現陣地ニ於テ夜ヲ徹ス 雨  
降り風寒シ今日モ尚暗キ塹壕生活ナリ
- 一、本日ノ現在員中隊長以下一二八名

歩三八 III 作命六ノ 86 号 十月十三日十七時〇分  
於トガリ山

第三大隊命令

- 一、敵情大ナル変化ナシ、第十一中隊(+1/4MG)ハ  
九時任務ニ就ケリ敵ハ之ニ対シ「チェッコ」及手榴  
弾ヲ以テ抵抗シツ、アリ
- 二、大隊ハ天候回復ヲ待チ攻撃準備ヲ進メントス
- 三、第十中隊及機関銃中隊ハ概ネ現態勢ニ於テ第十一  
中隊ガ特ニ夜間逆襲ヲ受クニ際シテハ機ヲ逸セス其  
ノ陣地確保ニ援助スヘシ(電灯ヲ廻ス一斉射撃)但  
シ機関銃中隊ノ其ノ主力ヲトリデ山間ニ異動スヘシ、  
大隊長直轄タリシ一分隊ヲ復期セシム
- 四、第十二中隊長ハ其ノ一小隊(擲弾筒ニヲ含)ヲシテ  
前進ヲ準備セシメ第十一中隊長ヨリ要求アラバ直ニ

増援其ノ指揮下ニ入ラシムヘシ

- 五、第八中隊ハ左松山北方路地ニ位置スヘシ
- 六、爾余ノ諸隊ハ現在地ニ在リテ現任務ヲ続行スヘシ
- 七、余ハトガリ山ニ在リ

大隊長児玉少佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記

十月十四日 曇 於トガリ山

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 87 号】
- 一、霧ノ晴間ヲ利用シテ大円山ノ敵ヲ制圧シツ、夜ニ入ル、本日ノ攻撃モ天候悪キ為中止
- 一、本夜モ現陣地ニ於テ夜ヲ徹ス
- 一、本日ノ現在員前日ニ同シ

歩三八 III 作命六ノ 87 号 十月十四日十六時五十分  
於トガリ山

第三大隊命令

- 一、当面ノ敵情大ナル変化ナシ  
右翼隊（連隊及配属部隊）ハ師団命令ニ基キ明十五日大円山ニ対スル攻撃ヲ開始ス、野砲兵隊ハ明十五日天明後要点ノ破壊及制圧射撃ヲ実施ス、第四中隊二分ノ一第一機関銃ハトガリ山附近ニ於テ第三大隊ノ攻撃ヲ援助ス
- 二、大隊（+8）ハ明十五日天明後実施スル野砲兵破壊及制圧射撃後大円山ニ向ヒ攻撃前進セントス、攻撃前進ノ時機ハ別命ス
- 三、第十一中隊（1/4MG、1/31 2 属ス）ハ依然現位置ヲ確保シ明十五日天明後砲兵隊射撃ヲ開始スルニ至ラハ機ヲ見テナシ得レハ松山ヲ占領シア、イ、ウ陣地ノ敵ヲ火力ヲ以テ制圧スヘシ、右第一線トス
- 四、第九中隊ハ明十五日八時迄ニ第十一中隊北方峪地ニ進出シ第十一中隊ノ左側ニ対スル前進ヲ準備スヘシ、之カ為本夕其ノ進出路ヲ偵察スルヲ要ス、左第一線トス
- 五、機関銃中隊ハ明十五日八時迄ニトリデ山附近ニ異動シ第一線ニ対スル前進ヲ準備シアルヘシ
- 六、大隊砲小隊ハ現陣地ニ於テ主トシテア、イ、ウ、カ、キ陣地ニ対シ制圧射撃ヲ実施シ攻撃前進ニ当リテハ

ウ、エ、キ陣地附近ノ敵重火器ニ対シ射撃シ前進ヲ援助スヘシ

- 七、爾余ノ各隊ハ予備隊トス第十二中隊ハ現位置、第十中隊ハトリデ山後方凹地、第八中隊ハ第十二中隊ノ後方近ク八時迄ニ位置ヲ異動シ前進ヲ準備スヘシ
- 八、小行李ハ本日中トリデ山北方村落（二十五日ノ隊繙帯所）ノ位置ニ前進シ弾薬補充ヲ準備スヘシ
- 九、隊繙帯所ハトリデ山東北方山麓一軒家ニ開設スヘシ
- 一〇、余ハ九時頃迄トガリ山ニ在リ爾後トリデ山付近ニ異動ス

大隊長児玉少佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記

十月十五日 曇 於大円山

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 88,89 号】
- 一、津川分隊第十中隊ニ配属ス
- 一、七時三十分トリデ山ニ陣地移動待機ス
- 一、第十一中隊十二時攻撃前進、十三時大円山内松山高地占領ス、中隊主力ハ直ニ前進松山高地ニ到ル
- 一、戦局有利ニ進展シ十九時遂ニ大円山々頂ヲ占領シ同地確保ノ俟夜ヲ徹ス
- 一、同夜吉川小隊第十一中隊ニ、岡本小隊第十二中隊ニ配属ス
- 一、本二十時三十分松村武夫負傷ス
- 一、本日ノ現在員中隊長以下一二七名

歩三八 III 作命六ノ 88 号 十月十五日十三時〇分  
於トリデ山

第三大隊命令

- 一、大隊ハ重点ヲ左ニ保持シ大円山ヲ攻撃セントス
- 二、第十中隊ハ陣地ニ於テキ、イ陣地ヲ攻撃スヘシ但シ成可右ニ依ルヲ避クヘシ其ノ前進スヘシ其ノ前進ノ時機ハ別命ス
- 三、第九中隊ハ示シタル嶺ニ前進シ、ル陣地ニ対シ攻撃ヲ準備スヘシ攻撃前進ノ時機ハ別命ス
- 四、機関銃中隊ハ一小队ヲ以テカ陣地ニ至リ第十一配属タリシ小队ヲ併セ指揮シ先ツ第十一中隊ニ協力

シナシ得ル限り第九、第十中隊正面ノ攻撃ヲ援助スヘシ

五、第十中隊ハ第九中隊後方ノ瘤ニ前進スヘシ（予備ノマヽ）

六、第十二中隊、第八中隊ハ現在地ニ在リテ前進準備ヲシアルヘシ

七、大隊砲小隊ハ現在地ニ在リテ主トシテキ、エ、サ附近ニ現出セル敵重火器ヲ求メテ射撃スヘシ

八、余ハ尚暫クトリデ山ニ在リ

大隊長児玉少佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記

歩三八 III 作命六ノ 89 号 十月十五日十五時五十分 於トリデ山

第三大隊命令

一、各隊ノ勇敢ナル攻撃ト諸砲適切有効ナル協カトニ依リ大円山ノ敵ヲ殆ンド殲滅セリ

一、各中隊ハ至敵ナル警戒ノモトニ現在地ヲ確保シ夜ヲ徹スベシ

三、本夜ノ給養ハ携帯口糧甲ニ依ルヘシ

四、余ハ大円山上北方約百米ノ地点ニ在リ

大隊長児玉少佐

下達法 各隊長ニ要旨ヲ口達ノ後命令受領者ヲ集メ口達筆記

十月十六日 晴 於大円山

一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 90-91 号】

一、九時十分小田信雄負傷ス

一、中隊ハ依然現在地ヲ確保

一、敵ハ我が大円山ニ向ッテ盛ニ砲撃ス

一、十五時三十分森川岸雄負傷ス

一、本日モ現在地ニ於テ夜ヲ徹ス

一、本日ノ現在員中隊長以下一二五名

十月十七日 晴 於大円山

一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 92,93 号、歩三八命 162 号】

一、十一時〇分谷口春雄負傷ス

一、中隊ハ依然大円山ヲ確保ス

一、十六時岡本小隊中隊ニ復帰ス他ノ配属ハモトノ如シ

一、中隊ハ第九中隊附近ニ陣地変換シ左三角山ニ対シ射撃準備ヲナス

一、大西小隊ハ第十中隊ニ配属、津川分隊中隊ニ復帰ス

一、本日ノ現在員中隊長以下一二四名

十月十八日 晴 吊橋湾西方谷地

一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 94-96 号】

一、配属小隊ハモトノ俣中隊ハ大円山ヲ下山前進ス

一、大西小隊第十二中隊ニ配属替ヲナス

一、十一時三十分辻本清三郎戦死ス

一、同時吉川小隊中隊ニ復帰ス、同時大西小隊中隊ニ復帰

一、松田久治隊員帰隊ス

一、本夜ハ各地ニ於テ夜ヲ徹ス

一、本日ノ現在員中隊長以下一二三名

歩三八 III 作命六ノ 97 号 十月十九日八時五十分 於大円山東南麓杉林

第三大隊命令

一、当面ノ敵ニ動揺ノ色アリ、第十中隊ハ独断ヲ以テ攻撃前進セリ

二、大隊ハ主カヲ以テ直ニ一文字三角山ヲ攻撃セントス

三、第十中隊ハ依然右第一線第九中隊中第一線第十二中隊、左第一線一文字三角山ヲ奪取スヘシ

四、機関銃中隊ハ最右翼ノ小隊及三角山小隊ヲシテ直ニ一文字三角山ヲ射撃セシメ主力ハ第十中隊ノ左側附近ニ陣地ヲ占領シ主トシテ同中隊ニ協カスヘシ、其ノ援護分隊ヲ現所属ニ復期セシム

五、大隊砲小隊ハ現在陣地ニ於テ一文字三角山陣地ヲ射撃シ適時西隣高地ニ目標ヲ変換シ之ヲ制圧スヘシ

六、第十一中隊ハ予備隊トス鞍部附近ニ前進スヘシ

七、小行李ハ現在地ニ在リテ弾薬補充ニ任スヘシ

八、余ハ鞍部西方瘤ニ在リ

大隊長児玉少佐

下達法 命令受領者ヲ集メテ口達筆記

十月十九日 晴 吊橋湾西方谷地

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 97-100 号】
- 一、中隊ハ午前八時前進全面高地ヲ占領
- 一、津川分隊第十二中隊ニ配属
- 一、第十二中隊ニ岡本小隊ヲ配属同中隊配属津川分隊中隊ニ復帰
- 一、中隊主力同地確保夜ヲ徹ス
- 一、本日ノ現在員前日ニ同シ

十月二十日 晴 於一文字三角山

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ号 101-103】
- 一、第二(吉川)小隊第十中隊ニ配属、第一(岡本)小隊中隊復帰ス
- 一、第三(大西)小隊第十一小隊ニ配属、逐次前進前面ノ松山ヲ占領
- 一、栗本照夫、山口弘、瀬川神酒太郎退院帰隊ス
- 一、本夜ハ現在地ニ於テ夜ヲ徹ス
- 一、本日ノ現在員中隊長以下一二七名

十月二十一日 晴 於一文字三角山

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ号 104,105】
- 一、配属小隊モトノ如シ
- 一、中隊ハ現在地ニ於テ援護射撃、十二時三十分第十中隊ノ位置ニ陣地変換ヲナス
- 一、本夜モ同地確保ノ俣夜ヲ徹ス
- 一、松田久治、松田保雄平病ノ為入院ス
- 一、徳永長三入院ノ所退院帰隊ス
- 一、本日ノ現在員中隊長以下一二六名

十月二十二日 晴 於一文字三角山

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 106 号】
- 一、中隊ハ依然現陣地ヲ確保
- 一、十一時糧秣受領、同時吉川小隊中隊ニ復帰ス
- 一、第十二中隊ニ第一(岡本)小隊ヲ配属
- 一、久シ振リニ故郷ヨリノ便リニ接シ一同大喜ヒ、日

尚暗キ塹壕中テ鉄砲声ヲ聞キ乍ラ読ム、兵ノ顔皆喜ヒニ満チ本夜ハ皆故郷ノ夢ヲモ見ル事タラウ

一、本日ノ現在員 前日ニ同ジ

十月二十三日 晴 於一文字三角山

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 107,108 号】
- 一、中隊ハ依然現陣地ニ在リテ、丸山、紅葉山及ドンダリ山ノ敵ニ対シ射撃シ敵兵力ノ減耗ニ勤ム
- 一、田中伍長兵器修理ノ為沙窩ニ到ル
- 一、第一大隊白雲山ヲ占領戦局益々有利ニ進捗ス
- 一、本夜モ現在地ニ於テ夜ヲ徹ス
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

十月二十四日 晴 於両路口

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 109-110 号、歩三八作命 128 号】
- 一、前面ノ敵ハ夜間退却セルモノ、如シ
- 一、大隊ハ十時敵ヲ追撃ス、飯高軍曹駄馬ノ誘導ニ任ス
- 一、十四時三十分河南省、湖北省ノ省界ヲ突破ス
- 一、約一ヶ月間ノ山嶽暮シヨリ久シ振リニ道路上ヲ前進出来得タ時ノ氣持皆澆刺タルモノアリ
- 一、追撃本隊トナリテ前進、十七時四十分両路口ニ到着、二十時ヨリ夜間追撃トナリ急迫ス
- 一、同時石中昌雄入院ス
- 一、本日ノ現在員中隊長以下一二五名

十月二十五日 曇 於董家湾

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【歩三八作命六ノ 129 号】
- 一、五時十分大休止、九時出發麻城へ麻城へト前進
- 一、十七時三十分麻城ヲ左ニ見テ尚モ前進董家湾ニ大休止ス
- 一、大別山脈モ遂ニ突破シ漢口平野ニ進出ス
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

十月二十六日 雨 於宋埠西方無名部落

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【歩三八作命?号】
- 一、六時董家湾出發午前中ハ涼シク行軍日和ナリ午後

雨トナリ中館駅西方部落ニテ小休止中食ヲナス

- 一、十七時三十分宋埠西方無名部落ニ於テ大休止夕食ヲナス

一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

十月二十七日 晴 於黃安城外

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【歩三八作命?号】
- 一、七時宋埠城外出發尚モ敗敵ヲ急迫ス
- 一、西張園東方二科ノ地点ニ於テ大休止昼食ス
- 一、二十時黃安ニ到着ス
- 一、本日ハ近頃ニナイ晴天行軍デ少シ熱ク水ヲ相当要求セリ
- 一、連日ノ猛強行軍トハ云ヘ一般ニ士氣旺盛ナリシ、然レ共病氣ノ為トハ云ヘ数名ノ落伍者ヲ出シタ事ハ遺憾ナリ

一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

十月二十八日 晴 於黃安

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【該当なし】
- 一、午前中兵器被服馬匹手入、午後一般ニ休養ス
- 一、本日ノ日直下士官 小柴伍長
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

十月二十九日 晴 於黃安

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【該当なし】
- 一、本日ノ日直下士官 小柴伍長
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

十月二十九日 晴 於黃安

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【該当なし】
- 一、宿舎内外ノ清潔整頓ヲ実施ス
- 一、糧秣受領ス
- 一、本日ノ日直下士官 西沼伍長
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

十月三十日 雨 於黃安

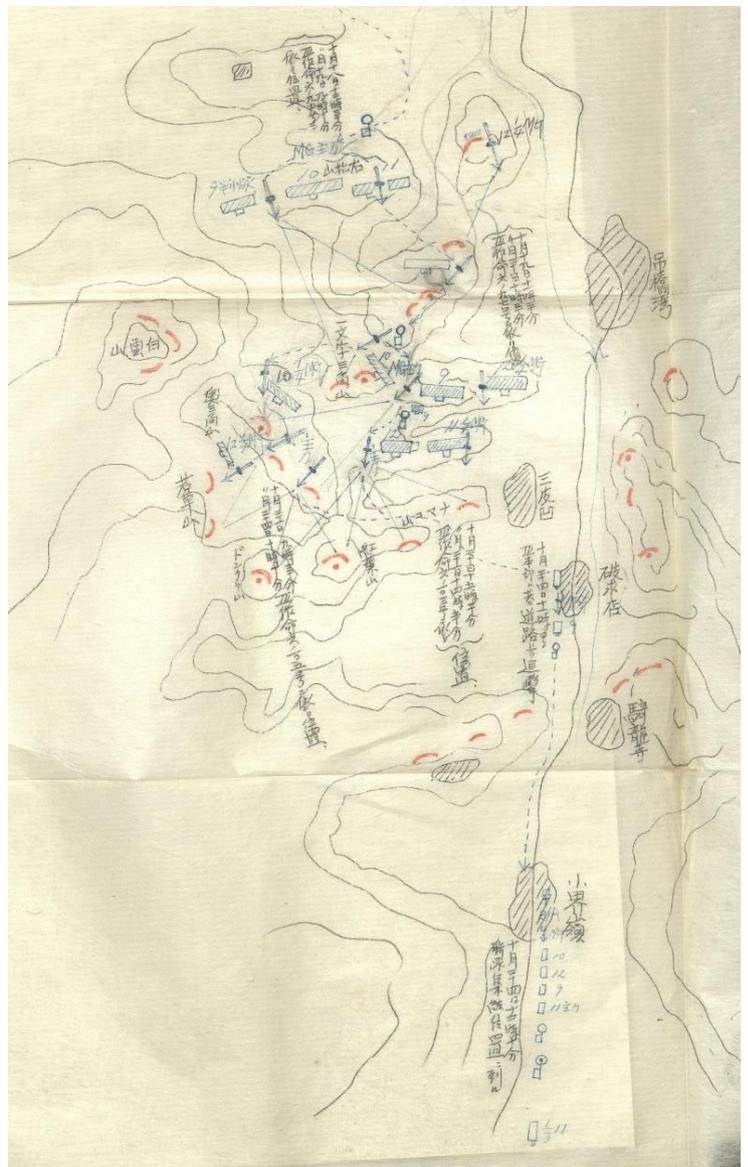
- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ【III 作命六ノ 113 号】
- 一、八時宿舎移動ノ為設営者五方灣ニ出張ス

一、十七時宿舎ノ移転完了セリ

- 一、本日ノ日直下士官 中島伍長
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ

十月三十一日 晴 於五方灣

- 一、本日ノ命令別紙ノ如シ
- 一、宿舎内外ノ清潔整頓ノ為一日ヲ終ル
- 一、十時師団長閣下ノ非公式巡視アリ
- 一、十時ヨリ岡本中尉以下五名巡察ニ服務ス
- 一、本日ノ日直下士官 津川伍長
- 一、本日ノ現在員 前日ニ同シ



2021年10月  
奈良県立図書館編、発行